

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 小川町立東中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実施内容

- 期 日 : 平成30年1月31日 (水)
- 場 所 : 小川町立東中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (32名) 2年4組 (32名)
- オリンピアン : 山口 美咲 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、3つのオリンピックバリューの意味について簡単に説明し、バリューはオリンピックが大切に思っていることでもあるので、今日はバリューを意識して授業を受けてほしいと話し、準備体操に移る。
- ・ストレッチの後、3チームに分かれての鬼ごっこを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3チームに分かれて、10人11脚を実施。予選と決勝の2回戦行った。
- ・山口先生と一緒にクラス全員で挑戦。2回挑戦し、目標タイムはクリアできなかったが、2回目にタイムを縮められたことがよかったと山口先生から伝える。



4. まとめ



- ・再度の運動の時間が楽しかったかを問いかけ、次の座学の時間ではオリンピックバリューについてより詳しく伝えたと予告し、授業終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



映像を見せながら自己紹介。古代オリンピックや近代オリンピックの復興について説明。競技をやめようと考えた時に、一緒にオリンピックに出ようと声を掛けてくれたライバルとのエピソードを交え、山口先生がオリンピックを目指す中で感じたバリューを伝える。

3. グループワーク



発問①：自分の夢や目標と、その夢を叶えたい理由を書き出そう。
発問②：班で夢を共有し、代表生徒1名の夢を叶えるために何をすべきか、周りの人は何が出来るかを考えよう。
発表：・テストで100点を取る。100点を獲れば努力の成果が出たと思い、次回のテストでも自信になるため、毎日コツコツ自主学習をする。
・サッカー選手になる。プロとして活躍したいので、毎日リフティングを1000回する、体幹トレーニングを3セットする。
・看護婦になる。人の命を助け、一人でも笑顔が増えるようにしたいので、1日必ず1時間勉強する、学年末テストまでに10点上げる。
等の意見が挙げられた。

4. まとめ



グループワークでは皆に夢や目標、実践したいことを書き出してもらったが、言葉にすることは自分と約束をすることなので、夢の実現が近づく。人生は一度きりで、1日でも多く笑顔で過ごすために、自分がどうなりたいのか、どんな人生にしたいのかを考えてほしいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年2月1日 (木)
- 場 所 : 小川町立東中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (33名) 2年1組 (30名)
- オリンピアン : 長岡 千里 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・長岡先生から自己紹介後、オリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認。運動の時間はいつも通り楽しく取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。ストレッチの後、じゃんけん勝ち抜けを実施。

3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳び(90秒×3回)を実施。90秒間で跳んだ回数を競い、引っ掛かっても続きから数えて跳ぶことをルールとした。
 ・各回終了後、回数と作戦内容の発表を行い、「掛け声を掛け合った」「縄を短くした」等の作戦が挙がった。長岡先生から、作戦を立てて目標に向かうことができ、チームで団結したことがよい結果につながっていると伝える。

4. まとめ



・運動の時間、どんな気持ちで取り組めたか、その取り組みについてどう思ったのか、座学の時間で考えていきたいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

■授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・トリノ大会の映像を見せながらボブスレー競技について紹介。ボブスレーは「氷上のF1」と呼ばれており、カーブの入り方や出方によってタイムが大きく変わると話す。オリンピックシンボルの意味等も紹介しながら、長岡先生にとってのオリンピックバリューを伝える。

3. グループワーク



発問①：運動の時間に班で決めた作戦を振り返ってみよう。

発表①：縄を短くしてまわす回数を多くした、前の人と間を空けないように気を付けた(エクセレンス)、皆で声を出して回数を数えた、並び順を工夫した(フレンドシップ)、楽しんで跳んだ、声を出してチームの士気を高めた(リスペクト)等の意見が挙げられた。

発問②：結果を受けてどのように感じたか話し合ってみよう。

発表②：一人ひとりが頑張ることで達成感を感じた、終わった後にまた挑戦したくなった(エクセレンス)、負けてしまったけれど、皆で協力できたのでとても達成感があった(フレンドシップ)、チームで決めたことが結果につながった、楽しんで跳んだときが一番結果が良かったので楽しむことが大切(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・できなかったことに対して「もう無理」「自分はダメ」と諦めるのではなく、次にどうすればいいかを考えてほしい。オリンピックは参加することに意義があり、それまで時間をかけてトレーニングを積む。努力をしてきた過程はメダルを獲った人も予選落ちした人も同じであり、結果に対して自分が納得して自信を持てるかどうかが大切だと話す。挑戦して失敗しても、その失敗が成功につながるので、皆にはたくさんの方に挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 証明書贈呈

